

総合研究奨励賞 (結城賞)



梶田 藍

略 歴

- 平成19年3月 山口大学医学部医学科卒業
- 平成19年4月 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター研修医
- 平成21年4月 岡山大学病院皮膚科
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程入学
- 平成24年5月 川崎医科大学附属川崎病院皮膚科
- 平成24年10月 一般財団法人淳風会倉敷第一病院皮膚科
- 平成27年7月 岡山大学病院皮膚科
- 平成27年9月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了

研究論文内容要旨

Toll-like receptors (TLRs) は自然免疫において特定の病原微生物の産物を認識する。TLR3は二重鎖RNAのセンサーであり、ウイルス感染で重要な役割を担っていると考えられているが、表皮角化細胞でのTLR3の発現と機能の制御機構については十分に解明されていない。我々はTh1サイトカインであるインターフェロン γ (IFN- γ) が正常表皮角化細胞においてSTAT1経路でTLR3の発現を増強させていることを発見した。IFN- γ とTLR3のリガンドであるpoly (I : C) で共刺激を行うとインターフェロン β (IFN- β)、IL-6、IL-8、human β -defensin-2の発現を相乗的に増強する。これらの相乗効果はendosomal acidification inhibitorであるクロロキンやTLR3のsiRNAによって抑制される。IFN- γ とpoly (I : C) の共刺激は、単独での刺激と比較して、単純ヘルペスウイルス1型 (HSV-1) に対する抗ウイルス活性を著しく増強する。IFN- γ が皮膚でのウイルス感染においてTLR3の発現と機能を増強することにより自然免疫応答に寄与する可能性が示唆された。